

項目	事業の名称及び実施概要	点検及び評価
(4) 公民館活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・中能登町子ども会連絡協議会 <ul style="list-style-type: none"> 1) 町補助金 800,000 円 2) 事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ◆全国子ども会安全会への加入 ◆各地区育成費の助成 ◆秋・冬各種球技大会 (グラウンドゴルフ大会、ボウリング大会) ・中能登町女性協議会 <ul style="list-style-type: none"> 1) 町補助金 2,000,000 円 2) 主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ◆定期総会 ◆環境施設視察研修 ◆体力づくりレクリエーション大会 ◆会員旅行 ◆町祭総踊り ◆町長と語る会 ◆議会傍聴 ◆女性のつどい ◆女性セミナー ◆敬老会お手伝い ◆成人式お手伝い ◆リサイクルバザー ◆会報 15 号発刊 ◆反射材キャンペーン ◆交通安全出動式 ◆交通安全パレード ◆中能登地区県政会議 ◆交通安全マスコット配り ◆交通安全母親大会・県婦人意見発表大会 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども会の堅実な活動と発展を図り、子どもの健全育成に資することができた。 ・子ども会という組織への愛着と連帯と子ども同士が相互に納得する規律の精神を涵養することができた。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主性の尊重や道徳心の尊重、体力の向上など目的をもって活動していきたい。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 31 年度においても支部数が減少しているが、協議会としての事業は充実しており、各種事業を通じて行政と連携した取り組みができた。また、いろいろな場面で協力体制がしっかりしていることから、地域づくりやサポートに資することができた。 ・行事等を通して町行政に対する課題や疑問を問いかけることができ、さらに会員同士の絆を深めることができた。 ・支部にて講座を開催した際に、講師謝金の一部を町から助成する制度の利用が増えた。今後も活用し、支部内での活動もより活発になってほしい。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口、世帯の減少に伴い、協議会に参加する会員の減少が目立ち、解散する地区支部の問題が深刻化してきている。平成 31 年度に関しては、2 支部の脱退があった。今後、町女性協議会の継続については、個人会員も視野に入れて検討を重ねていく。 ・女性の活躍は町活性化において欠かせないため、今後も支援を行ない支えて行かなければならない。

項目	事業の名称及び実施概要	点検及び評価
(5) 青少年の健全育成	<p>○家庭や学校、地域との連携を密にし、犯罪のない地域社会を創る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回補導の実施 町祭当日の巡回補導の実施。 期 日 7月27日(土) 時 間 17:25~18:10、20:55~21:40 参加者 29名 夏休み期間中の巡回補導の実施。 期 日 8月6日、8日、20日、22日 時 間 20:00~21:00 参加者 52名 ・町駐在所、各学校代表、県警委嘱少年補導員、七尾鹿島地区高等学校 PTA 校外補導連絡協議会、青少年育成推進指導員、町教育委員会の協力のもと実施した。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年の非行を防止し、健全育成を図ることができた。青少年の健全育成を促す環境づくりをさらに推進させ、学校・地域、関係機関との連携を深めながら、巡回補導を実施し子ども達の健全な育成を図ることができた。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全安心な町、子ども達を守るという意味で、巡回補導は今後も取り組んでいきたい。近年、パソコンや携帯電話の普及に伴い、サイバー空間における有害図書(インターネット系)から青少年を守る取り組みについても検討していく必要がある。
	<p>○青少年の地域での社会参加を促す</p> <p>① 青少年育成推進委員の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内閣府、県主催の研修会、七尾鹿島ブロック会議への参加。 ・町立学校への協力。 ・町巡回補導への協力。 <p>②放課後子ども総合プランの推進 放課後子ども教室の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とりや放課後子ども教室 ・とりや児童館放課後子ども教室 ・かしま放課後子ども教室 ・かしま児童館放課後子ども教室 ・ろくせい放課後子ども教室 ・ろくせい児童館放課後子ども教室 <p>各教室5回実施し、全30回実施、延べ819名参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な内容 マジック教室、カレー作り教室、スポーツレクリエーション教室、詩吟教室、お茶会教室、工作づくり他 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会では、相互の意見、情報等の交換及び研究協議を行い、推進指導員の資質向上を図ることができた。ブロック会議では、子ども達を育てる健全な社会環境づくりについて学ぶことができた。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も研修会やブロック会議に積極的に参加し、相互の意見、情報等の交換など行い他市町との連携を強化していきたい。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びや、色々な体験を通し、子ども達の自主性の尊重、体力の向上、道徳心の尊重など目的をもって取り組むことができた。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関や子ども達の意向も聞きながら、楽しい教室になるよう努めていきたい。また、子ども達の興味を引くような企画を考え、安全・安心な活動ができる放課後の居場所づくりに取り組んでいきたい。

項目	事業の名称及び実施概要	点検及び評価
(5) 青少年の健全育成	<p>③成人式の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施日 令和2年1月12日(日) 10:30～ ・場所 ラピア鹿島「アイリスホール」 ・参加者 対象者196人、参加者158人 ・式典 <ul style="list-style-type: none"> 1)開式の辞 副町長 2)国家斉唱(ピアノ伴奏) 新成人代表 3)町民憲章唱和 新成人代表 4)式辞 町長 5)祝辞 知事(代読・教育長)、衆議院議員、 県議会議員、町議会議員 6)記念品贈呈受領 新成人代表 7)二十歳の誓い 新成人代表 8)謝辞 新成人代表 9)閉式の辞 副町長 ・記念撮影(各地区) ・実行委員会主催親睦会の開催 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町のPRを図り、記念品を特産品に変更した。また、写真撮影用ブースを町特産である織物生地を活用して壁紙にし、配置場所を工夫したことで、撮影を楽しむ成人者が増えた。 ・当日の記念写真、スナップ写真をインターネットからダウンロードができる仕組みを新たに構築したことで、より参加者の思い出作りの手助けが出来た。 ・成人式実行委員会主催の親睦会は会費制で行い、内容の企画、進行等を実施することで、社会構成員としての自覚を促すことができた。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成人18歳に伴う今後の式典内容、時期について方針を検討する。
(6) 国際交流事業の推進	<p>○国際化に対応した事業推進を台湾基隆市成功国民中学校との相互交流を通し展開する</p> <p>中能登中学校の生徒が、台湾基隆市成功国民中学校からの生徒と引率の皆様を迎えた。</p> <p>中能登中学校にて歓迎会を開催し、部活動紹介も行った。中能登中学校の参加者は40名で、うち16名はホストファミリーとして参加をした。</p> <p>○次世代を担う児童生徒の国際的視野を身につけるための国際交流を推進する</p> <p>①ジャパンテントへの共催並びに実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 1)期日 令和元年8月22日(木)～25日(日) 2)受入 留学生7名 3)ホストファミリー 6ファミリー 4)中能登町交流プログラム <ul style="list-style-type: none"> ◆能登上布会館の見学及び体験 ◆中能登町織物デザインセンター見学及び体験 ◆不動滝の見学 ◆町内カフェにて昼食 ◆雨の宮古墳群散策及び王墓の館見学 ◆うちわ作り体験 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台湾基隆市成功国民中学校との交流事業を通して国際化に対応できる人づくりを行った。 ・海外との交流を深めた事で、国際感覚を養い、多文化共生の理解促進につながった。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・招聘事業と派遣事業を1年おきに行っている。国際感覚を養い、多文化共生の理解を深めるために、今後も継続していきたい。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町プログラムに、ホストファミリーにも参加してもらい、交流を深めた。 ・ホストファミリーの方々には留学生との交流をとおして、異文化に触れ、お互いに学び合う良い機会を提供できた。

項目	事業の名称及び実施概要	点検及び評価
(6) 国際交流事業の推進	<p>② 21世紀石川少年の翼 ※県主催事業 (町内より参加者が出た場合、派遣費用の 1/4 町が負担する。)</p> <p>石川県の友好交流地域である中国江蘇省又はブラジルへ県内の青少年を派遣し、中国の青少年との交流を通じて、両国の相互理解と友好を促進するとともに、県内青少年の国際的視野を広げ、国際協力の精神を養うことで、次代を担うにふさわしい青少年リーダーを育成する。</p> <p>・ホストファミリー募集 石川県の友好交流地域である韓国全羅北道、ロシアイルクーツク州からの青少年を受入れし、両国の青少年との交流を通じて、相互理解と友好を促進する。併せて県内青少年の国際的視野を広げ、国際協力の精神を養うことで、次代を担うにふさわしい青少年リーダーを育成する。</p> <p>③ ジュニアウイングス in アメリカ ◆ホームステイ他 アメリカ合衆国カリフォルニア州モントレイ市ウォルターコートン中学生徒の家庭 ※七尾市とモントレイ市は姉妹都市</p>	<p>・中能登町の産業である繊維産業に関連し、デザインセンターの見学や能登上布の機織り体験を通して留学生たちに町の魅力を伝えることができた。</p> <p>・不動滝の雨の宮古墳群は、町の学芸員に依頼をし、説明を受けた。より理解が深まり良かった。</p> <p>・うちわ作り体験は、ホストファミリーにも一緒に体験をしてもらった。話をしながら、時には手伝いながら作業を進めていて交流も深まった。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>・この事業を活用し、国際交流及び多文化共生の推進を図っていく。</p> <p>【成果】</p> <p>・平成 31 年度は、応募なし</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>・たくさんの生徒に参加してもらえよう、各学校に掲示周知依頼を行う。</p> <p>【成果】</p> <p>・町内から 3 名の中学生が参加した。</p> <p>・英語力や現地の地理歴史等を事前研修で学び、実際に研修の成果を発揮した。</p>

項目	事業の名称及び実施概要	点検及び評価
(6) 国際交流事業の推進	<p>◆日程 2019年8月17日(土)～27日(火) 5月：募集説明会、選考会 5～8月に事前研修を実施。 9月：事後研修 10月：報告会</p> <p>◆対象者 (※町内参加者1名につき100,000円の補助金交付) 七尾市・中能登町他 中学2～3年生</p> <p>◆参加者：中能登中学校より 3名 (3年生2名、2年生1名) 七尾市内中学校より 2名 (2年生2名) 計5名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際的視野を広げ、国際協力及び相互理解を深めた。 ・現地に行き、ホームステイやプログラムを通じて、自主的にコミュニケーションを重ね、自信をつけることができた。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も町内から参加者を募り、国際的視野を身につけ、相互理解を深める様協力をしていきたい。
	<p>○日本語教室開設により、多文化共生の町づくりを推進する。</p> <p>2019年度 文化庁委託事業 「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業地域日本語教育スタートアッププログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中能登町教育委員会として受託した。 ・「生活者としての外国人」が対象。 ・平成29年度から3年間、文化庁より補助及びアドバイザーの派遣を受けて日本語教室開設に向けて取り組む。 ・日本語教室が町の多文化共生の拠点となる事を目指す。 ・日本語教室を通じて「顔の見える関係作り」を目指す。 <ul style="list-style-type: none"> ・文化庁委託事業最終年度として、月1回の教室開催を行った。 ・年間11回、プレ教室を開催。(3月に予定していた教室は中止) ・参加者数は年間のべ110名。 ・日本語教室ボランティア養成講座(全5回)を開催。 ・参加者はのべ68名。 ・多文化共生推進と日本語教室開催案内のリーフレットを作成し、生涯学習のつどい時に来場者に配布したり、役場窓口に設置したりした。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サポーター向けの特別講座も開催。 ・養成講座を開催したことにより、新規のボランティアを獲得できた。 ・なかのとまち多文化共生推進プランを策定し、町としての方向性をより明確に示した。 ・平成29年度から開催している、多文化共生事業としての、町防災訓練への参加と、町祭時における「多文化共生ブースの設置」と「多言語アナウンス」を引き続き行った。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中能登町国際交流の会 多文化共生部会としての活動を行っていく。 ・令和2年度からは、中能登町国際交流の会がより主体的に教室開催を行っていく。 ・中能登町から委託費を計上する。さらに、令和2年度は、国庫補助を県から間接的に受ける。 ・平成30年度より場所提供をしているが、より使いやすくなるように町国際交流の会に求めていく。 ・日本語教室開設に向けて、さらに住民への周知を行っていく。 ・諸団体や、近隣市町との連携をしていきたい。 ・安定的な運営を目指して、町国際交流の会との連携を図っていく。

項目	事業の名称及び実施概要	点検及び評価
(7) 図書館の充実	<p>○生涯学習の拠点として、町民のニーズに配慮した必要な図書、資料を収集し、町民の読書意欲を喚起する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書購入予算内で、より多くの図書購入ができるよう3図書館で連携し、重複しないよう購入している。 ・話題性の高い本は3館で購入するなど工夫している。利用者の希望の本が町内図書館で蔵書していない場合は、県内図書館や県外図書館からも借り受けることができるサービスを行っている。また、季節や旬の話題を取り入れてテーマを決め、展示コーナーを設けることにより、読書意欲を喚起している。 <p>○読書グループ、図書館ボランティアの資質向上を目指し育成支援を図る</p> <p>①図書館ボランティア養成講座（全4回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目 令和元年11月22日（金） 「ブックスタートの読み聞かせ」～えほんをひらく楽しい体験を～ ・2回目 令和元年11月29日（金） 「おはなし会に登場する小道具」～「ことりん」づくり&実演～ ・3回目 令和元年12月5日（木） 「おはなし会のすすめかた」～手遊び・すばなし・絵本・紙芝居・人形劇～ 人形劇の裏側に潜入 ・4回目 令和元年12月11日（水） 「学校の読み聞かせ」～学校司書に聞くどんな本がいいのかな？～ <p>②公開読書会（2回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏 令和元年8月9日（金）「洪庵のたいまつ」 司馬 遼太郎/著 ・秋 令和元年10月31日（木）「椿師と呼ばれた男」 剣町 柳一郎/著 <p>○家族での読書の推進を目指し「うちどく（家読）」の推進を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うちどく推進賞を実施 「うちどくノート」町内小学校全児童に配布し、うちどくノート提出順に学校で表彰を実施 シルバー賞、ゴールド賞は2月に学校で表彰 <ol style="list-style-type: none"> 1) 「うちどく賞」(1冊目達成者) (1～4年生 15冊 5～6年生 8冊) 2) 「シルバー賞」(2冊目達成者) 3) 「ゴールド賞」(3冊目以上達成者) 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の希望に応じ、リクエストがあった図書はなるべく購入したり、県内外図書館から借り受けたりすることで、利用者の貸出冊数が増加となった。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き利用者のニーズを把握し、利用しやすい図書館を目指し、町民の読書意欲の増進に努めていく。 ・図書館統合といった大きな課題もあり、より充実した図書館を目指し、方策を考えていく必要がある。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座を開催することで、新規ボランティアの加入につなげることができた。参加して良かったとの声もある。 ・公開読書会 参加者（夏）14名、（秋）11名 テキストのテーマに即した図書の展示を行い、本の紹介に努めた。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア養成講座を生かし、図書館ボランティアの活動範囲を広めていきたい。 ・読書会会員以外の公開読書会の参加者が少ないことから、一般の利用者が参加しやすいような周知方法を考える必要がある。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度受賞者数 うちどく賞 590人 シルバー賞 169人 ゴールド賞 305人 前年度に比べ、うちどく賞とゴールド賞の参加者が大幅に増加した。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校と連携をとり読書の習慣化を図りたい。 ・家族でのルールを作り、家族と一緒に本についてコミュニケーションをとってもらえるよう引き続き実施していきたい。

項目	事業の名称及び実施概要	点検及び評価
(7) 図書館の充実	<p>○学校図書館司書と連携、協力し学校図書館の活性化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館担当者との連絡打合せ会の実施 1) 実施日 平成31年4月17日(水) 2) 参加者 学校図書担当教諭、学校図書館司書、町立図書館職員 3) 内 容 町図書館の小中学生対象事業について各校の読書指導計画についてボランティアによる朝読書についてうちどくノートについて 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館にない図書、授業で使用する図書を町立図書館や町外図書館から借りて補うことができた。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館司書の充実を図り、学校図書担当教諭との連携を強化し、児童生徒の学校図書館、町立図書館の利用推進を図る。
	<p>○乳幼児から絵本に慣れ親しんでもらうため、町内に生まれたすべての赤ちゃんを対象に絵本を手渡し、ボランティアと職員が読み聞かせ等を行うブックスタート事業を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタート事業 1) 対象児 7ヶ月の乳児 2) 実施日 保健センターでの7ヶ月児健診時 3) 内 容 2冊の絵本を贈呈(20種類の本から2冊を選ぶ) 2) 実 績 61組(122冊贈呈) 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタート後に図書館を訪れ、子供の図書カードの登録と絵本を借りていく親子が見受けられた。ボランティアの参加により、親子での絵本の読み聞かせの普及と図書館利用の推進に繋がっている。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期から図書と慣れ親しむことが大切であることから今後も引き続き事業を実施し、本の楽しさを知ってもらい、図書館利用の推進を行う。また、ボランティアの増員を図り読み聞かせの充実を図る。
	<p>○3館ある図書館の充実を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算の関係上、重複しないよう図書を購入しているが、どこの図書館でもその図書を借りることができるよう予約を受け付けている。また、町内の図書館で借りたものは、借りた図書館でなくても返却できるようにしている。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書の予約受付をすることで、利用者が足を運びやすい図書館で貸出しをすることができ、利用者の負担軽減となっている。 ・平日は毎日図書を運搬することで利用者に早く予約本を貸出できるよう努めている。 ・図書の貸出しだけではなく、各図書館でのおはなし会やいろいろな行事を行うことで多くの利用者(子どもからお年寄りまで)が利用しやすい場を提供できた。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者のニーズにあった運営を図書館のあり方や事業を検討していく。

項目	事業の名称及び実施概要	点検及び評価
(7) 図書館の充実	<p>○学校読み聞かせボランティアの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校からの依頼により、各小中学校での朝昼読書タイムに読み聞かせボランティア（31人）が月1回読み聞かせを行った。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせを行うことで、児童生徒の読書への関心が高められた。 ・図書館職員も読み聞かせに参加し、自ら経験を積んでいる。同時に図書館のPRも行っている。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせは、心のケアにもつながる利点があるため、新規ボランティアを募り、事業を継続する。
	<p>○図書館講座や行事を実施</p> <p>（一般向け）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文学散歩 ・文学講座 ・図書館まつり（おはなし会、映画会、古本市他） ・図書館講座 ・絵本の中の料理教室 ・子ども映画上映会 ・クリスマスおはなし会 ・ぬいぐるみおとまり会 ・ちいさなおはなし会 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種講座や行事を行うことで、図書への関心が高められた。また、図書館利用の向上にもつながった。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書との関わりを広く持ってもらえるよう、今後もさまざまな講座や行事を推進していく。 ・参加者が増加するよう広報やPRに努める。
	<p>○おはなし会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おはなし会ボランティアによるおはなし会を各図書館にて定期的に実施 「鳥屋図書館」ピノキオ（第2土曜日）6回 58人 「鹿島図書館」English STORYTIME ～英語で絵本を楽しく読もう！～ （第4土曜日）10回 113人 「鹿西図書館」 ボランティアーズ（第1土曜日）11回 145人 ちいさなおはなし会（毎週木曜日）45回 451人 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おはなし会を行うことで児童の絵本への関心、地域の方が実施することで、地域とのふれあいの場に繋がった。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語のおはなし会を取り入れ、今後も、おはなし会を継続実施し、児童に図書への関心を深めてもらいたい。

6 生涯スポーツの振興

項目	事業の名称及び実施概要	点検及び評価
(1) ジュニアスポーツクラブの充実	<p>○スポーツ少年団、ジュニアスポーツクラブの活動を支援し、子どもたちの心身を育てる</p> <p>・ジュニアスポーツ教室の開催</p> <p>19 教室を実施し、各教室年間 50 日から 300 日の活動を行った。各教室には育成費や大会派遣費を補助し、その活動を支援している。</p> <p>1) 鹿西剣道教室 2) 鹿島少年剣道教室 3) 中能登柔道教室 4) 少林寺拳法 5) とりやアスリートクラブ 6) 中能登ジュニア体操クラブ 7) かしまFC (サッカー) 8) 中能登ジュニアトランポリンクラブ 9) 中能登フェニックス (ミニバス男子) 10) 中能登ミニバスケットボールクラブ (女子) 11) 中能登クラブ (学童野球) 12) 中能登卓球スポーツ少年団 13) とりやソフトテニスクラブ 14) バドミントンクラブかしま 15) バレーボール女子 16) 極真 中能登カラテ 17) なかのと織姫ソフトボールクラブ 18) ジュニア空手道教室 19) 武道教室 山口道場</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各団体とも引き続き熱心に活動し、活動日数を増やしたクラブもみられる。 熱の入った指導のもと、中には全国大会に出場している教室も多くみられる。 同一種目で複数クラブが統合するなどの少子化の影響も出ている。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 総児童数に対する加入率は 47.4%となり、昨年度より約 0.8%減少している。今後も多くの児童に加入を勧めていきたい。
	<p>○ジュニアスポーツクラブ指導者育成派遣を行い、指導者の資質向上を図る</p> <p>・指導者としての資質向上のため、資格取得や各種講習会への参加について派遣補助を行う。</p> <p>・スポーツ振興フォーラム 2020 新型コロナウイルス感染拡大防止により中止</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度はスポーツ振興フォーラム 2020 を 3 月に開催予定としていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止により中止。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人でも多くの指導者養成のため、講習会等への受講を幅広く呼び掛けていく。 指導方法のあり方が騒がれている今日であるが、少しでも資質向上に繋がる事業を進めていきたい。

項目	事業の名称及び実施概要	点検及び評価
(2) 地域スポーツの振興	<p>○体育協会やスポーツ推進委員との連携を図り、地域スポーツの推進を図る</p> <p>①体育協会は 23 競技団体を指導及び各種の補助をし、ジュニアから一般世代までの競技力向上を目指している。特に町民大会の開催については、大会開催費を補助し、大会運営に大きく寄与している。また、県民体育大会では各競技団体及び出場種目選手に手厚い補助をし、競技力向上及び町の知名度アップに尽力している。</p> <p>②スポーツ推進委員会は 15 名で組織され、各小学校の PTCA*⁶活動やスポーツ活動、町スポレク祭（カローリング体験会）の企画運営、北陸地区、県、中能登地区の研修会に参加し、その技量のアップに尽力し、町及び地域のスポーツの推進に尽力している。</p> <p>また、町委員会での研修会も企画し、スポーツ推進委員としての資質向上に努めている。</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 31 年度は各競技の指導強化により、ジュニアにおいては延べ 25 人を全国大会に選手派遣し、高校生及び一般競技においても延べ 43 人の全国大会出場選手を輩出した。 ・高校総体、国体出場選手には懸垂幕を掲揚し、選手の健闘を讃えた。 ・PTCA*⁶活動では、ドッジビーやキンボール等のニュースポーツの普及に尽力した。 ・町スポレク祭ではカローリングを行い、新たなニュースポーツを紹介、普及を行った。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育協会においては、一層の競技力向上を目指し、チャンピオンスポーツとして更なる好成績を目指すべく、選手育成に尽力する。
	<p>○スポーツレクリエーション祭の充実を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進委員が企画運営するカローリングをメインに町民ソフトボール、町民グラウンドゴルフなどの各種大会、テニス、ソフトテニスを実施した。 ・生涯学習のつどいにおいて、ニュースポーツの普及に向けた取り組みとして、カローリングのデモ会場を設置し、多くの方々に競技の内容をPRした。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中能登町では馴染みの少なかったカローリングを紹介することで、新たなニュースポーツを体験することができた。 ・生涯学習のつどいでは、子供から大人までがカローリング競技を楽しみ、普及促進に努めることができた。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進委員会には、今後も多くの方にカローリングを紹介し、体験してもらいたい。
	<p>○県民体育大会への参加競技の拡大を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーリング、セーリング、フィールド射撃、など近年参加競技が増えたが、綱引き、なぎなた等の参加したことのある競技の再出場に向け選手発掘を実施する。また、新たに銃剣道競技、山岳競技が参加となり、より一層の参加拡大を図りたい。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの選手の参加によりスポーツ振興賞を受賞している。 また、総合順位においても同規模の市町と比べると健闘している。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更なる参加競技拡大のため、かつて出場できた競技の選手発掘に努め、各競技団体に呼び掛ける。

項目	事業の名称及び実施概要	点検及び評価
(3) スポーツ施設の整備・充実	○スポーツ施設の統廃合 今年度実績なし	【成果】 ・これまで統廃合を実施してきたことにより、施設の維持管理が軽減できた。
	○スポーツ施設の二次的活用 廃校となった学校施設の体育館及びグラウンドを体育施設とした。 ・旧鳥屋中体育館を鳥屋体育館 ・旧鳥屋中グラウンドを鳥屋グラウンド	【今後の方向性】 ・スポーツ施設建築から約35年から40年経過し、修繕に係る費用が増大している。安全に利用できるように計画的な修繕が必要である。 ・将来を見据えた公共施設活用指針の策定を行い、施設利用の位置づけ、多機能複合化でサービスの向上を目指し、施設の適正な維持管理を行う。 ・施設の利用者に維持管理費の一部負担を義務付ける料金改定を実施し、適正な施設運営管理を行う。 ・利用者が安全、安心して利用できるように保守管理と速やかな修繕に対応し、管理施設の縮減が利用者の減少にも繋がるため、町民がスポーツやレクリエーションに親しめる環境づくりを推進し、スポーツ施設の効率的な管理運営と整備を図る。 ・公共施設が主たる目的以外にも活用できる生活環境整備にも取り組む。
	○施設の整備及び充実 ・テニスコートとりや一部改修 ・トレーニング器具の充実	【成果】 ・老朽化したスポーツ施設の設備関係更新等を行ったことで体育施設の充実を図ることができた。 【今後の方向性】 ・体育施設の統廃合を考慮した上で、設備等更新の優先順位を実施していく。 ・利用者が安全かつ安心して利用できるように保守管理と速やかな修繕をすることが課題である。 ・事業の縮小は、設備の充実に相反し利用者の減少にも繋がるため、町民がスポーツやレクリエーションに親しめる環境づくりを推進し、スポーツ施設の効率的な管理運営と整備を図る。

項目	事業の名称及び実施概要	点検及び評価
(4) 指導者の養成と選手の育成	<p>○体育協会と連携し、指導者の指導力向上及び選手の育成に努める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者の資質向上、選手の育成 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度は、全競技団体に対し指導者育成に努めるよう指導した。また、行政としては指導者研修を開催し、育成強化に向けた支援を実施した。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全競技において若い世代の指導者の養成が必要である。今後も継続して指導力向上に向けた取り組みや育成強化に努めていくよう指導していく。
	<p>○全国大会等に出場する選手の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ジュニア全国大会 (11大会 延25人出場) ②全国高校総体 (14人出場) ③国民体育大会 (3人出場) ④その他高校生の全国大会 (3大会 3人出場) ⑤一般全国大会 (11大会 延23人出場) <ul style="list-style-type: none"> ・ジュニアスポーツ全国大会出場派遣補助 (公共交通利用のみ適用) H30年9月より 交通費：全額補助 宿泊費：半額補助 (上限1万円) 参加料：半額補助 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度は昨年度より全国大会出場者が増加した。年々出場選手が増加傾向にある。育成支援や援助の効果が出ていると感じている。 ・他市町に比べ優遇された補助金制度により、選手の負担の軽減ができた。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国大会等出場には交通費、宿泊費、栄養費など多額の費用が必要なため、町からの補助金は引き続き継続する。

※注釈

- ※1 ALT、Assistant Language Teacher (アシスタント・ランゲージ・ティーチャー) の略称、英語教科において日本人の教員を補佐し、生きた英語を児童生徒学生に伝える英語を母国語とする外国人の教員を指す。
- ※2 GTEC、Global Test of English Communication (グローバル・テスト・オブ・イングリッシュ・コミュニケーション) の略称、ベネッセコーポレーションが主催している、グローバル人材に必要な英語力を測定する検定試験です。
- ※3 SSW、School Social Worker (スクール・ソーシャル・ワーカー) の略称、非行、登校拒否などの問題に直面する児童生徒たちを学校と家庭とのパイプ役となって支援する専門家。
- ※4 Jアラート、ミサイル発射や津波、地震などの緊急情報を日本政府が発すると人工衛星や地上回線を通じて全国の市町村の防災行政無線を自動的に起動し、屋外スピーカーや屋内受信機、メールで知らせるシステム。
- ※5 ICT、Information and Communication Technology (インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー) の略称、日本では既に一般的となったIT (情報技術) の概念をさらに一歩進め、ITに通信コミュニケーションの重要性を加味した言葉。国際的にはICTという呼称の方が一般的。
- ※6 PTCA、Parent (親) Teacher (先生) Community (地域) Association (会) の略称、PTAに地域住民が加わった「親と教師と地域住民の会」。地域住民が、学校教育に外側からの支援をするだけではなく、地域の子どもたちは地域で育てるという「共育」の気持ちを大切にします。学校・家庭・地域社会の三者が、子どもの教育について緊密に連携した組織がPTCAです。

II 教育委員の主な活動

時期	各種会議・関係行事等	開催場所
平成31年 4月	異動教職員辞令伝達式 小中学校入学式 鹿西高等学校入学式 石川縣市町教委連第1回理事会 石川縣市町教育長会議	ラピア鹿島 小学校3校, 中学校1校 鹿西高等学校 金沢市庁舎 KKR ホテル金沢
令和元年 5月	石川県教育委員会連合会定期総会 第1回教育委員代表者会議 町立小学校運動会 町PTA連合会定期総会 七鹿中学校陸上競技大会 全国町村教育長会総会・研究大会	金沢市教育プラザ富樫 同上 小学校3校 ラピア鹿島 七尾市城山陸上競技場 東京都
6月	石川県町教育長研修会 小中学校計画訪問A 町立小学校音楽会	羽咋市 各小中学校 ラピア鹿島
7月	石川縣市町教委連第2回理事会 県中学校体育大会応援 小学校水泳交歓会	金沢市庁舎 県内各会場 鳥屋学園プール
8月	県市町教育委員会セミナー 町戦没者慰霊式 石川県民体育大会応援 東海北陸地区町村教育長研究協議会 学校経営研修会 町PTA連合会と教育委員会との懇談会	KKR ホテル金沢 ラピア鹿島 各会場 KKR ホテル金沢 ラピア鹿島 中能登中学校
9月	町立小学校器械運動交歓会 第2回教育委員代表者会議 算数教育実践推進事業 教育委員視察研修	鳥屋小学校 KKR ホテル金沢 鹿西小学校 愛知県
10月	町PTA連合会研究大会 石川縣市町教育委員会連合会研究大会 中能登中学校学校祭 国語・算数教育実践推進事業 国語教育実践推進事業	ラピア鹿島 加賀市 中能登中学校 鹿島小学校 鳥屋小学校
11月	紀宝町教育委員会交流 石川縣市町教委連第3回理事会 石川縣市町教育長会教育長研修会 算数科教育推進事業公開授業研究会 中能登しごと館 いしかわ道徳教育推進事業	中能登中学校 KKR ホテル金沢 KKR ホテル金沢 鹿西小学校 中能登中学校 中能登中学校
12月	中能登町こども議会	鳥屋庁舎

時期	各種会議・関係行事等	開催場所
令和2年 1月	中能登町成人式	ラピア鹿島
2月	中能登中学校立志式 生涯学習のつどい	ラピア鹿島 ラピア鹿島
3月	町立中能登中学校卒業証書授与式 町立小学校卒業証書授与式	中能登中学校 小学校3校
通年	中能登町議会定例会議, 随時会議及び各常任委員会 その他関係方面からの会議, 行事出席依頼による参加	中能登町議会議場及び会議室

Ⅲ 令和元年度決算（教育委員会）の概要

1 目的別内訳

（単位：千円）

区 分	令和元年度		平成30年度		増減額 A-B	増減率
	決算額 A	構成比 %	決算額 B	構成比 %		
教 育 総 務 費	255,032	26.22	231,335	22.15	23,697	0.10
小 学 校 費	75,560	7.77	103,313	9.89	▲ 27,753	▲ 0.27
中 学 校 費	51,534	5.30	60,220	5.77	▲ 8,686	▲ 0.14
社 会 教 育 費	295,051	30.34	342,251	32.77	▲ 47,200	▲ 0.14
保 健 体 育 費	295,397	30.37	307,250	29.42	▲ 11,853	▲ 0.04
うち体育施設費等	94,891	9.76	100,023	9.58	▲ 5,132	▲ 0.05
うち学校給食費	200,506	20.62	207,227	19.84	▲ 6,721	▲ 0.03
計	972,574	100.00	1,044,369	100.00	▲ 71,795	▲ 0.07